

どう生きる？

早いもので、2年生もまもなく終わりです。あつという間です。

毎日の生活は充実していますか？



楽しいですか？
あと1年をどう過ごしますか？
卒業後はどうしますか？
大学へ行く人は、どんな学生生活を送りますか？
社会に出たら、どんなふうに着るしますか？
何を生きたいに生きていきますか？

ちよん質問攻めしてみました。どうでしょう？
答えは一人ずつ違っていてもあたりまえだし、すぐに答えが出ないものもあるでしょう。ですが、そんなこと考えたこともない、という人も多そうですね。少なくとも私にはそう見えませんが、それでいいのでしょうか？ スマホに完全に支配され、AIには職も奪われ、食料危機も迫り(beeを大切にしないとね)、気候変動は地球を襲う、そんな社会へ出て行くみなさんがとても心配です。

今の自分、そのままでもいいんですか？ 私、ごときが叫んでみても、みなさんは何も変わらないかもしれない。それが考えてみた結果なら、それでいいと思えますが、本当にいいんですか？

いずれにしても、考えることだけは必ずしてほしい。みなさんが幸せな人生を歩んでくれること、ただそれだけが私の願いであり、みなさんが追い求めるべきものであると思います。

あたりまえですが、人生は

一度きりだし、短いよ。

(川目の光夜)



大阪府立
泉陽高等学校
73期担任団
2019年
令和元年
12月24日
(火曜日)
第13号



修学旅行
を終えて！

◎修学旅行実行委員長(8組 今井花穂)

修学旅行からもう2ヶ月経ちました。台湾の風景はまた鮮明に思い出せますか？ 本校の修学旅行で台湾に行くのは例がなく不安な人も多かったのでは？ アンケートから食事への満足度が低く、私も口にしない物が多く、B&Sで食べた小籠包をも少し食べておけば、と思いました。日本に帰ってきてからも「もつこうすれば良かった」と思った人は、次の旅行に役立ててくれたらいいですね。色々なことが異文化体験になったので良かったと思います。一生に一度の高校生のイベントが終わってしまいました。一生に一度の結果では多くの皆さんが手で楽しめた様子です。

I. 修学旅行の目的について (達成状況)

- (1) 総合的な学習の時間の一端として、台湾の文化・歴史に触れ豊かな感性を養う。
 - (2) 学校交流やB&Sプログラムを通して積極的にコミュニケーションを図る。
 - (3) 集団生活を通して、互いの理解を深めるとともに規律を守り、責任ある態度と自主性・協調性を養う。
- あなたは、上記の目的(1)~(3)を達成できましたか (5~1の中から回答してください)。

回答番号	(評価)					全体平均値	
	高	←	→	低			
(1)	152人		113人	70人	7人	5人	4.2
(2)	158人		101人	65人	20人	3人	4.1
(3)	171人		124人	42人	6人	4人	4.3

II. 事前学習について

- (4) 事前学習を行うことは意義があったと思いますか (5~1の中から回答してください)。

回答番号	(評価)					全体平均値	
	高	←	→	低			
(4)	118人		87人	98人	31人	14人	3.8

III. 修学旅行期間中の行程・内容について

- (5) 九份散策・三峽老街散策 (6) B&Sプログラム (7) 学校交流 (大華科技大学) (8) 全体レク
- (9) ビッグシティでのショッピング (10) 食事 (11) ホテルの設備

回答番号	(評価)					全体平均値	
	高	←	→	低			
(5)	150人		105人	67人	16人	7人	4.1
(6)	230人		73人	29人	12人	3人	4.5
(7)	90人		71人	109人	57人	19人	3.5
(8)	250人		59人	27人	5人	5人	4.6
(9)	170人		108人	55人	9人	4人	4.2
(10)	39人		44人	92人	116人	55人	2.7 (F-劣)
(11)	297人		29人	12人	5人	3人	4.8 (A-劣)

IV. 修学旅行全般を通して

- (12) 充実した修学旅行となりましたか (5~1の中から回答してください)。

回答番号	(評価)					全体平均値	
	高	←	→	低			
(12)	262人		57人	20人	3人	2人	4.7

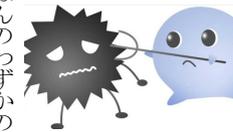


◎同副実行委員長(1組 大原愛弓)
修学旅行お疲れ様でした。大きな怪我や事故もなく、全員が安全に帰ってくる事が出来ました。私自身一番印象に残ったのは、5つ星ホテルのすばらしさです。とても広く綺麗で、言葉で伝えきれない程でした。そして73期全員で過ごした3日目の夜、みんなの協力のおかげで、全体レクを楽しくスムーズに行うことが出来ました。



盛り上がる時と静かに話を聞く時と、当たり前のように思いますが、全員がメリハリを持って行動できる所に73期生の良さを感じました。一月の合唱コンクールでも73期の良さを発揮していきたくです。最後に、修学旅行委員のみんなが一番率先して動いてくれたお陰で、最高の修学旅行になりました。ありがとう。そして先生方、現地の方、旅行会社の方々、私たちのために

「免疫寛容」という言葉がある。免疫学者として名高い故多田富雄博士が特に強調していた分野である。体に入り込んだウイルスが強力な場合体の免疫細胞はウイルスを激しく攻撃する。その際に自らの体の組織までもを異物として攻撃してしまう。そうしなければ生命体である自分自身も危険な状態に陥ってしまう。それを避けるために、免疫細胞は外敵であるはずのウイルスへの攻撃を緩め、体内でウイルスと上手く付き合いながら組織維持を保とうとする。これが免疫寛容という働きである。多田博士はこの働きこそ人体で最も高度な組織維持作用であると説く。同時に医学分野の話だけでなく、人間のあらゆる営みにおいて、この免疫寛容の精神が大切だと主張する。今、現代の若者はほんのわずかの感性の異なる他人さえも避ける傾向にあるという。クラスという集団も然り。感性が違っても当然！



進路指導部より



それぞれのスケジュールが上手く合つて、全員が同じ方向を向いて一生懸命取り組む、と、なかなか難しいだろうが、全員が「寛容」の精神を持って、クラス一丸でスクラムを組み、2年最後の学年行事に取り組んで貰いたい。(見末の朋三)

受験生の学期ともいわれる、2年生の冬がやってきました。皆の様子も少しずつ変わってきたように思います。勉強にも熱心に取り組む人が増えてきました。ただ、気になるのは、自分のしたい教科を自分がしたいタイミングでやっている人がいることです。数学の授業なのに英語集を開いている人、国語で数学の課題をしている人...。問題を解く、覚えることは、自分一人でできますが、授業中の解説やポイントはその時にしか聞くことができません。一つ一つの授業に集中すれば、最も無駄なく勉強できる

